

# 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所名	グループホーム こすもす		
所在地	山口県大島郡周防大島町大字小松開作143-27		
電話番号	0820-74-1124	事業所番号	3597100035
法人名	有限会社 ひまわり		

訪問調査日	平成 20 年 11 月 7 日	評価確定日	平成 20 年 12 月 25 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

## 【情報提供票より】

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	8 人	常勤 6 人 非常勤 2 人 (常勤換算 7.2 人)	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 33,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
その他の費用	月額	12,000 円		
	内訳	光熱水費		

### (4) 利用者の概要 (11月7日現在)

利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
	要介護 1	4	要介護 4
	要介護 2	3	要介護 5
	要介護 3	2	要支援 2
年齢	平均 85.4 歳	最低 77 歳	最高 96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療 機関名	内科 増本クリニック、野村医院、柳井病院、光輝病院、おげんきクリニック、嶋元医院 歯科
-------------	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

### (優れている点)

「笑顔から生まれる信頼の輪」の理念の下、職員、利用者や家族、地域の人に笑顔で挨拶し、信頼関係が築かれていくことを心掛けておられます。利用者と職員の間に関心と関係が築かれ、利用者が生き生きと活躍されています。利用者の生活歴を把握し、個々の活躍出来る場を設け、意欲を持って生活できるように支援されています。食事の献立は栄養士がカロリーや栄養バランスを考えてたて、三食ともホームで利用者と一緒に調理されています。

### (特徴的な取組等)

たくさんの協力医療機関の確保と医療連携体制による看護師との連携、かかりつけ医への受診、内科医や専門医の往診などがあり、適切な医療が受けられるように支援されています。

## 【重点項目への取組状況】

### (前回の評価結果に対するその後の取組状況)

前回の評価結果を受けて、理念の見直しや運営推進会議の記録の整備、事故発生に対する救急救命の講習、地域の協力を得る避難訓練、薬の副作用の把握など改善に取り組まれています。

### (今回の自己評価の取組状況)

職員全員に自己評価書を配り、記入出来る所を記入してもらい、管理者がまとめておられます。自己評価をとおして、日々の取り組みを見つめなおす機会とされています。

### (運営推進会議の取組状況)

自治会長、民生委員、地区住民(消防署員)、地域包括支援センター職員、社会福祉協議会職員、家族数名、施設職員等のメンバーで2ヶ月に1回開催し、生活状況を説明したり、外部評価結果の報告、ヒヤリはっと等の報告などを行ない、参加者と意見交換をされ、出された意見をサービスに活かされています。

### (家族との連携状況)

面会時や電話で利用者の暮らしぶりや様子を伝えたり、意見や要望を聞かれています。利用者の日常生活風景や行事の様子を載せたホーム便りを2ヶ月に1回送付されています。運営推進会議には全家族に案内を出され、数人が参加されています。1年に1回、家族、利用者、職員との親睦会をもち、食事やゲーム、歌を歌ったりして楽しい交流の場を設けられています。

### (地域との連携状況)

自治会に加入し、草刈り、自治会の集会や懇親会に運営者が参加されています。利用者は地域の敬老会、夏の夜市、小学校の運動会に参加され、顔なじみの人と話をされています。散歩時に挨拶や会話などをし、野菜やみかんを頂くこともあります。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>職員全員で地域密着型サービスとしての理念を考え、「笑顔から生まれる信頼の輪」(私たちは地域に愛される施設を目指しています。地域の方々に笑顔で挨拶することを心掛けています。)という理念を新たに作りあげている。</p>	
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>ミーティングで数ヶ月にかけて話し合い作り上げた理念を、ホーム内に掲示し、職員皆で共有し、日々のケアで実践している。笑顔での関わりが利用者、家族、地域とのあたたかい関係づくりになるよう取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>自治会に加入し、草刈や自治会の集会に運営者が参加している。地域の敬老会や夏の夜市、小学校の運動会に参加したり、散歩時の挨拶や会話、野菜やみかんを頂くこともある。小学生、フラダンス、琴、地域の歌手等の訪問がある。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p><b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>職員全員に自己評価票を配り記入出来る所を記入してもらい、管理者がまとめている。自己評価をとおして日々の取り組みを見つめ直す機会となっている。外部評価の結果を受けて理念の見直し、救急救命法の定期的な実施など改善に取り組んでいる。</p>	
5 (10)	<p><b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>家族、自治会長、民生委員、地域住民代表、地域包括支援センター職員、社会福祉協議会職員、施設職員等の参加メンバーで2ヶ月に1回開催している。ホームの状況、外部評価結果などの報告をし、家族や地域の意見などを聞き、サービスに活かしている。</p>	
6 (11)	<p><b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>介護保険課に相談して栄養士を紹介してもらっている。地域包括支援センターのアドバイスを受け、サービスの質の向上に努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時や電話で利用者の暮らしぶりや健康状態を知らせている。利用者の日常生活や行事の様子の写真を載せたホーム便りを2ヶ月に1回送付している。状態の変化に応じて、電話で連絡をしている。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	運営推進会議に全家族の参加を呼びかけ、会議の中で、意見を聞いたり、会議後に話し合ったり、面会時や電話で意向や苦情を聞き運営に反映させている。相談、苦情受付の窓口、苦情解決方法、外部苦情申立機関は重要事項説明書に記載しているが、第三者委員の選任はしていない。	・第三者委員の選任
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員8名を確保し、状況の変化に応じた対応をしている。職員の急な休みにも非常勤職員で勤務の調整をしている。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は少なく、変わる場合は半月くらい重複勤務をし、夜勤は2～3回2人体制で行ない、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	県の研修案内により、職員の段階に応じた研修を計画し、勤務の一環として参加の機会を提供している。資格をとるための勉強をしている人もいる。研修後はレポートを提出し、それを他の職員が閲覧できるようにし、皆の共通理解と介護技術の向上に努めている。	
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	岩国地区連絡協議会に入り、交流を行なっている。他のグループホームの運営推進会議に参加したり、催し物に利用者と共に参加している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前に本人と家族にグループホームを見学してもらい、すでに入居している利用者と話す機会を設けたり、場の雰囲気を感じてもらおうなどして、本人が安心して、馴染めるように支援している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p><b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>一緒に家事や生活をしながら利用者の得意な分野で持てる力を発揮できるように支援したり、調理の方法を教えたり、ことわざを教わるなど、本人から学んだり支え合う関係を築いている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>本人の希望や思いを聴き、なるべく意向に添うようにしている。入浴時やシーツ交換のときなど会話をしながら思いを聴いたりしている。困難な場合は家族の話を聴き本人本位に検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p><b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアカンファレンスを月1回行なっている。本人や家族の意見、要望をできるだけ取り入れ、かかりつけ医の意見も参考にして、本人が安心して暮らせる介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p><b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>介護計画は3ヶ月に1回見直し、状況の変化に応じて必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p><b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>医療連携体制をとり、病院で手術をした後、早期退院支援を行ない、医療処置を受けながらの生活の継続を行なっている。受診の付き添いや送迎、理美容院への送迎、買物支援等を行なっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診や往診の支援をしている。週1回、内科の往診、2週間に1回、精神科の医師の往診があり適切な医療を受けられるように支援している。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居契約時に重度化対応の指針を示し、家族の同意を得ている。重度化した場合、医師、家族、関係者と話し合い、全員で方針を共有している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応はしていない。記録など個人情報の取扱いには特に気をつけている。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日のおよその生活時間を決めているが、利用者の体調や気分に合わせて無理なく過ごせるように支援している。一人ひとりのペースを大切に、その人らしい暮らしが出来るように取り組んでいる。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	栄養士が献立をたて、三食ともホームで調理している。利用者と職員と一緒に準備や配膳をして、同じ食事を皆で楽しく食べている。片付けも一緒に協力しながら行なっている。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	10時から16時まで毎日入浴ができるようになっている。一人ひとりの体調や希望、タイミングにあわせて、無理がないように入浴支援をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	新聞や雑誌の購読を支援している。花壇の水遣り、床掃除、調理、洗濯物たたみなどの仕事を共にしたり、レクリエーション、歌、体操、ぬり絵、貼り絵、ゲーム、工作、ドライブ等楽しく過ごせる支援をしている。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買物やドライブ、散歩、戸外で子供とのふれあいなど一人ひとりの状態に応じて支援をしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	全職員が身体拘束について理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	運営推進会議で玄関に鍵をかけることについて話し合い、安全面を考慮し、家族の了解も得て玄関に鍵をかけている。	・鍵をかけないケアの工夫
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故、ヒヤリはつとを記録し、事故防止の対策、検討を行ない、一人ひとりの状態に応じた対応を検討し、事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	毎年、救急隊員による救急救命法を受けている。	
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年1回、避難訓練を行なっている。避難訓練の参加協力のため地域住民を戸別訪問し、地域住民に参加してもらって避難訓練を行なっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	利用者の薬の目的や副作用についてインターネットで調べ薬の解説書を作っている。職員は薬の目的を把握し、用法、用量について理解しており、薬は手渡しし服用を確認している。症状の変化に応じ医師に連絡し、支持を仰いでいる。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、緑茶によるうがいを支援している。就寝前に歯磨き、義歯の洗浄等の口腔ケアを行なっている。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの状態に応じた量やおかずの形状に工夫している。食事量を記録している。水分量は毎日1.5リットル飲むことを目安にして、食事の時、おやつの時のお茶に気をつけている。必要に応じて水分量の記録をとっている。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症マニュアルで予防や対応の取り決めがあり実行している。玄関、リビングに洗面台があり手洗い、うがいがすぐ出来るようになっている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	窓際に畳の腰掛けやソファ、テレビがあり、くつろぐことが出来る。窓から見える自然の景色や玄関やホールに飾られた花で季節感が感じられる。不快な音や光はなく利用者は落ち着いて過ごすことが出来る。対面式の台所で三度の食事が作られ、一緒に仕事をするなどして生活観がある。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはテレビ、仏壇、整理タンス、写真、人形などが持ちこまれ居心地よく過ごせるように配慮している。	

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	グループホーム こすもす
所在地	山口県大島郡周防大島町大字小松開作字上浜143 - 27
電話番号	0820-74-1124
開設年月日	平成 18 年 12 月 1 日

## 【サービスの特徴】

職員全員で意見を出し考えた地域密着型サービスの理念「笑顔から生まれる信頼の輪」（私たちは地域に愛される施設を目指しています。地域の方々に笑顔で挨拶することを心掛けています。）を新たに掲げ、入居者との信頼はもとより御家族や地域の方々との信頼関係、職員間の信頼関係を築く為、努力しています。入居者の方々にはそれぞれの持てる能力、個性を活かし活躍できる場を提供させて頂き意欲を持って生活していけるように取り組んでいます。地域の方々には積極的に挨拶する事から地域に浸透していきたいと考えています。

## 【実施ユニットの概要】（10月1日現在）

ユニットの名称	グループホーム こすもす		
ユニットの定員	9 名		
ユニットの利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
	要介護 1	4	要介護 4
	要介護 2	3	要介護 5
	要介護 3	2	要支援 2
年齢構成	平均 85.4 歳	最低 77 歳	最高 96 歳

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	9月初めに職員全員に自己評価表を配り、書ける範囲内で書いてもらい、10月初めに回収し、管理者が皆の意見をまとめ記入した。
評価確定日	平成 20 年 10 月 1 日

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		「笑顔から生まれる信頼の輪」(私たちは地域に愛される施設を目指しています。地域の方々に笑顔で挨拶する事を心掛けています。)を新たな理念としました。
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		数ヶ月に渡り皆で意見を出し合い決めた理念です。取り組み易く基本的なことなので日常的に実践している。
3	<p><b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		ホーム内に理念を表記し掲示している。
4	<p><b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		運営者や管理者はいつでも職員と連絡が取れるようになっておりまた毎月のミーティングで意見交換を行っている。
5	<p><b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		地域向けの通信や運営推進会議で地域密着型のサービスであることを示している。  家族向けや、地域向け通信に毎回理念を掲載したいと思う。
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p><b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		畑で出来た野菜を持って来てくださったり、帰宅願望のある入居者にやさしく声を掛けてくださることもある。
7 (3)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		敬老会や夜市、小学校の運動会に参加し、顔なじみの方と、出会った時は、お互いに笑顔で話しをしている。
8	<p><b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		併設しているデイサービスに来られる利用者とグループホームの入居者が一緒にレクや催し物を楽しむ機会がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価により自分たちの取り組みを見つめ直す機会になり、外部評価により違う見方、考え方知り、検討する機会になる。	
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議では日頃の生活状況を報告したり、地域向け通信へのアドバイスや外部評価概要や家族の意見を頂き、サービスに活かしている。	
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	介護保険課を通じ栄養士を紹介して頂いたり、地域包括センターからは気軽にアドバイスを頂いている。	
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	今までの入居者にこの制度を利用される方がいなかったが、今後の為にも学ぶ機会を持ちたいと思う。	
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	全職員は虐待は断じて行ってはいけない事だと認識しており、今までしたことは無い。	
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前、退去時には利用者、家族と十分に話しをし、理解納得の上行われる。	
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホームでは、家庭的な雰囲気が入居者とも普段から世間話や意見を言い易く、受け入れが出来る事は応じている。	
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	運営推進会議やこすもすだよりで定期的に報告している。又急な通院については個別に連絡をとっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 <b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	情報公開の要求があればいつでも応じる用意がある。		
18 (8) <b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	相談、苦情の受付窓口担当者は玄関内に明示し、重要事項説明書にも記載されている。		
19 <b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月全職員参加のミーティングがあり、日頃の職員の意見を聞く機会があり、運営者にはいつでも伝えることができ、意見は反映させている。		
20 (9) <b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の状況に応じた適切な職員配置をとっている。急な通院や職員の休みにも勤務の調整をおこなっている。代替職員はパート職員で確保できている。		
21 (10) <b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は最小限になっており、新しい職員は認知高齢者のケアに適した職員を採用し、利用者へのダメージを抑えている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) <b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	できるだけ研修の機会を提供している。研修後にはレポートを提出してそれを他の職員が閲覧できるようにし共通理解と介護技術向上に努めている。		
23 <b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	職員の年齢、性格、経験も幅広く多様な資質を持った職員を配置している。		
24 (12) <b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	少しずつではあるが、他のグループホームの運営推進会議や入居者と催し物に参加させてもらっている。		訪問してもらう事がないので何か機会を作りたいと考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	<b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	情報を共有した上で一緒に本人を支えていくようにしている。		
34	<b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族面会時などには職員が日頃の様子を伝えるなどさりげなく間を取り持つよう支援している。		
35	<b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者が知人の面会、手紙、電話などで関係が途切れないようにまた懐かしい場所へドライブに行ったりしている。		
36	<b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員は利用者1人1人の個性を活かしながら利用者間での助け合いや支え合いをさりげなく見守り、支援している。		
37	<b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービスが終了した後、退去先等を訪問したり、御家族にはケアのノウハウなどを伝えている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所時、本人の希望や思いを聴き、なるべく意向に沿うように努めている。困難な場合御家族の話を聴き本人本意に検討している。		
39	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居までに御家族、本人より生活歴、暮らし方、サービス利用迄の経過について分かる範囲で把握している。		
40	<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居前の情報と併せて日々新しい発見もあり、職員間で共有し適切な支援を心掛けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族の意見、要望を出来るだけ取り入れ本人が安心して暮らせる介護計画を作成している。	
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月ミーティングを行い、必要に応じて介護計画の見直しをおこなっている。	
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎月のミーティングでは入居者全員の様子について全職員で意見交換を行い、毎日の申し送りでも情報の共有をしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	要望に応じ柔軟に対応している。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの訪問はよくあり、音楽、ダンスを楽しむことができる。個人で高校生が来訪し雑談をしたり、小学生の来訪もある。社協の紹介でボランティアが来られるときもある。	
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	利用者に影響の無い程度の見学を受け入れている。	
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	地域の美容院、時計店、クリーニングを利用する。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p><b>プライバシーの確保の徹底</b></p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>入居者の人権を尊重し、プライバシーは十分に配慮している。個人情報の保護については周知している。</p>	
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員とのコミュニケーションにより、日頃の思いや性格を察し、又自分で決め個人々にあった支援をしている。</p>	
58	<p><b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b></p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>利用者が持っている能力にあった家事をしてもらい、精神的な負担にならないよう支援している。</p>	
59 (22)	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者の体調やその日の状態を見極め、レクリエーションや催し物に誘い本人のペースに合わせる。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>定期的にボランティアの美容師の来訪があり、また地域の美容院に行くこともある。各人が化粧水等持参している。</p>	
61 (23)	<p><b>食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>毎日、配膳、片付けは利用者で行い、調理の下ごしらえをしてもらう時もある。</p>	
62	<p><b>本人の嗜好の支援</b></p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>お酒、タバコは今まで希望されていない。タバコはホームでは禁煙になっている。飲酒の要望が利用者からあった場合は職員で協議、検討しその人の嗜好を尊重した対応を考えたい。</p>	
63	<p><b>気持ちのよい排泄の支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>1人ひとりの状態に合わせて排泄の習慣を活かし支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	年に1回懇親会を開催し、ほとんどの御家族に参加を頂いた。楽しみにしている御家族もいる。	
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	全職員は身体拘束は決してしてはいけない事と認識している。今までも抑制や拘束はしたことがない。言葉や薬による拘束についても、正しく認識し、向精神薬服用の利用者も必要以上の薬に依存しないで生活できるよう医師と相談している。	
75 (28)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	7月の運営推進会議で議題として話合ったところ、御家族からも玄関の鍵については今まで通り施錠する事となった。	
76	<b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員間の連携によりプライバシーに配慮し、利用者の所在や、様子を把握し、安全を確認している。	
77	<b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬や刃物は利用者がすぐ目に付く所には無く、必要に応じて職員が手渡しするようにしている。	
78 (29)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	毎日の申し送りやミーティングで1人ひとりの状態に応じた対策を職員間で協議し、注意を払い事故防止に取り組んでいる。事故、ヒヤリはつとを記録し、職員間で共有認識を図っている。	
79 (30)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	毎年、救急隊員による救急方法の指導を受け、応急手当の講習会に今年から順に参加することになっている。	
80	<b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはつと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故、ヒヤリはつとを記録し職員間で共有認識を図ると共にミーティングや申し送りで職員間で協議し、改善策を確認する。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前には花壇やベンチがあり、玄関の戸は寒冷時や雨天以外は網戸にしており、出入りし易く親しみ易くなっている。	
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	ホールには季節の花を活け、日差しによっては、ロールカーテンで調整し、室温も窓を開放し調整するようにしている。台所が対面式で料理の出来る様子を観たり、ときには、調理の下ごしらえで季節の食材に触れることもある。	
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	窓側に畳の間があり、またソファもあり、自由に利用者同士で座り談話している。	
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には入居者が日頃から使い慣れた物や望む物を持ち込むことができる。入居者が安心して生活出来るように支援している。	
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	窓の開閉やエアコンの調整により、換気、温度調整を利用者の状況をみながら小まめに行っている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	和式と洋式の部屋があり、ホールと洋式の部屋には手すりがある。人のよってはホールでは歩行器を使用し、自分で安全に移動している。	
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	1人ひとりのわかる力を職員は見定め、さりげなく支援し自立して生活出来るように工夫している。	
97	<b>建物の外周リや空間の活用</b> 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関前のベンチでくつろいだり、歩いたり、ときには花壇の水遣りをする時もある。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の 利用者の1/3くらいの	利用者の2/3くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="checkbox"/> 毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と 家族の1/3くらいと	家族の2/3くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input type="checkbox"/> 少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が 職員の1/3くらいが	職員の2/3くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の1/3くらいが	家族等の2/3くらいが ほとんどできていない